

Maple 16 の互換性の問題

以下に Maple 15 から Maple 16 へのアップグレードに影響する互換性の問題を説明します。

▼ プロットオプション

- Maple の旧バージョンでは、`thickness=0` および `thickness=1` オプションはラインのデフォルトの厚さを出力しました。Maple 16 ではデフォルトで曲線はより厚くなっています。デフォルトの厚さは `thickness=1` で、`thickness=0` オプションを使用すると Maple 15 での厚さを再現することができます。
- 2-D プロットのデフォルトの色が変更されました。旧バージョンの Maple でのデフォルトのパレットなどのカラーパレットの使用方法は、[plots:-setcolors](#) を参照してください。また、塗りつぶしプロットは部分的に透明になっています。
- 3-D サーフェス、2-D 陰関数サーフェスプロット、2-D 密度プロット、コンタープロットで使用されるデフォルトのグリッドは [49, 49] です。Maple 15 では、3-D サーフェスの上に描画されるワイヤーメッシュのラインの数はグリッドに正確に一致していましたが、Maple 16 ではあいまいなサーフェスの機能を回避するために密度が小さいワイヤーメッシュが描画されます。

▼ libname

- カレントディレクトリはデフォルトの `libname` パスに自動的に追加されます。そのため、カレントディレクトリのライブラリやヘルプデータベースは自動的に見付き、カレントのセッションで暗黙のうちに使用できます。
- カレントの作業ディレクトリを変更すると、`libname` が暗黙的に更新され、従来のパスにあるライブラリの代わりに新規ディレクトリのライブラリが使用可能になります。
- 詳細は、[libname](#) を参照してください。

▼ LinearAlgebra

- LinearAlgebra パッケージが Maple 6 で導入された際に、"programming interface" である `LA_Main` というサブパッケージも付属されています。過去の数バージョンで行われたさまざまな効率改善の結果、このプログラミングインターフェイスの効率の利点は大きく失われました。そのため、`LinearAlgebra[LA_Main]` モジュールのエクスポートは `LinearAlgebra` 自体のエクスポートとまったく同じです。`LinearAlgebra[LA_Main]` のエクスポートを参照したコードとワークシートは動作しますが、効率性を失わずに (かつフレキシビリティと使いやすさが増加して) `LinearAlgebra` のエクスポートを使用するように更新されています。

▼ ArrayTools[Alias]

- インデックス関数 `ArrayTools[Alias]` を持つ rtable で `ArrayTools[Alias]` を呼び出す場合、**読み取り専用のエイリアス**を出力します。このときオプション `readonly=true` を指定しない場合は、警告メッセージが表示されます。詳細は、[ArrayTools\[Alias\]](#) を参照してください。

▼ kernelopts(gcfreq)

- Maple のメモリマネージャへの変更により kernelopts(gcfreq) の使用が廃止されています。ガーベジコレクションのサイクルを切り替える、割り当てられたバイト数を基にした周期的な判断によるものではありません。その代わりに、メモリマネージャが現在のメモリプールを使い切って補給が必要であることを確認したときにコレクションが発生します。したがって、kernelopts(gcfreq) は廃止されています。詳細は、[MemoryManagement](#) を参照してください。

▼ 参照

[Index of New Maple 16 Features, Worksheet Compatibility Issues](#)